

「梅ちゃん先生」のいる 診療所

患者に寄り添うあたたかい診療で、
地域を支える町医者。

増田外科

うめなび

vol.3-2



診療所は蒲田警察署近くにある

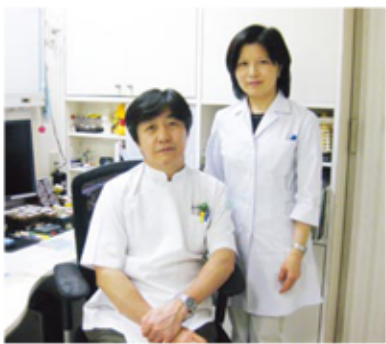
と聞いたうえで親身に相談に乗っており、患者と二人三脚で治療しようという姿勢が感じ取れる。当然、患者からの信頼も厚く、待合室はあっという間に一杯になり、多い時には1日200名以上の患者が先生を訪ねる。

奥様の武田朋子先生は、増田氏の次女で、医者として活躍する父親の姿や、患者が元気になっていく姿、明るい笑顔を見ているうちに、「この笑顔をこの地域から絶やしてはいけない、自分も患者さんの力になりたい」と、医師を志すようになり、今では院内を明るく支える存在となった。朋子先生は、現在放映中のNHK連続テレビ小説「梅ちゃん先生」の医療監修にも立ち会ったことがあり、本作品の全国の女医さんを紹介するコーナーにも取り上げられた。朋子先生は三姉妹だが、全員が医療関係に携わっているという。

患者に寄り添い、ともに歩み続けて約50年。あたたかな先生と明るいスタッフの力で、蒲田の町医者としての誇りとともにこの町を支えている。

JR蒲田駅より徒歩8分、蒲田警察署近くにある増田外科(大田区蒲田本町、武田明芳院長、03・3732・0877)は、先代の増田茂則氏が、戦時中大病を患った母親を看病している中で、病気で苦しむ人を元気にしたいと一念発起し、家業の酒屋を継がずに医師になることを決意、1963年に開院した。以来、患者の目線に立った診療で、長年に亘り蒲田の地域医療を支え続けてきた。どんな病状にも対応できるようにと開院した診療所は、外科という看板だが、内科、整形外科、皮膚科と診療科目は多岐に亘り、幅広い分野の医療サービスを提供している。

大病院での勤務、イギリス留学を経て院長となった武田明芳院長は、「私たちは、ただ病気を治すのではなく、あたたかい医療を提供することを心掛けています」と話す。その言葉通り、形式的に患者を診るのではなく、患者の生活状況や家族の話、身の上話もじっくり



「患者の目線に立った診療を心掛けています」と
武田明芳院長と武田朋子先生